

ALPT通信

令和2年度第16号
静岡県総合教育センター
アクティブ・ラーニングプロジェクトチーム



「学習科学」の考え方を生かして授業をつくる

11月26日、静岡大学にて、希望研修「学習科学の考え方を生かした学びの計画・実践」を開催しました。

どんな研修？

第1回（センター会場）
理論と授業プランの共有

所属校で授業実践

第2回（学校会場）
代表者授業と分析、実践の共有

本研修は、静岡大学
と総合教育センター
の共催です。

今年度は1回開催となったため、仕立て直して実施

（静岡大学会場）理論と授業プランの共有
代表者授業と分析

授業は事前に録画。
研修には、静岡大学の
学生も参加しました。

今年度の研修の実際

①理論の共有

講師：静岡大学大学院 村山 功 教授

「主体的・対話的で深い学び」実現のための授業デザインと理論

- 学習者がうまく学ばないと学習は成立しない。
- 教師にできるのは、学習者が「自分で考える」ための働き掛けと、その見取りである。
- 大切なのは「目標・指導・評価の一体化」
- 新学習指導要領で育成を目指すのは資質・能力の3つの柱
- 「主体的・対話的で深い学び」はその手段。
- 「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力等」の育成に「学びに向かう力・人間性等」（＝主体性）が基盤となる。
- 自己の考えを広げ深めるために対話が必要。
- 新しい知識を習得し、既存の知識と関連付け、組み合わせて新たな答えを作り出す。これが深い学び。
- 「主体的・対話的で深い学び」は単元や題材のまとまりで実現する。
- 知識構成型ジグソー法を実践する場合も単元構想が必要で、単元の中でどのように位置付けるかを考える。
- 目指したいのは「前向きなジグソー法」。最初から到達地点が決まっているのではなく、自分たちの考えをどこまでも発展させる。改善すべきはクロストーク。単なるまとめ・発表ではなく、学んだことが次の学習につながることを体験できる仕掛けが必要。



②代表者授業（事前に録画）

中学校社会（地理分野／アフリカ州） 授業者 掛川市立大浜中学校 澤田 貴成 教諭

- 単元課題 アフリカ州の国々がよりよく発展するために必要なことは何だろう？
- 本時の学習課題 アフリカ州には、子供が働かなければならないほど貧しい国が多いのはなぜだろう？



エキスパート A

アフリカ州の歴史

エキスパート B

アフリカ州の産業

エキスパート C

アフリカ州の教育

エキスパート D

アフリカ州の政治

- 4つのエキスパートグループに分かれて様々な資料を適切に読み取る。(エキスパート活動) **ここを撮影**
- エキスパートグループにおける話し合いを基に4つの資料を比較検討する。(ジグソー活動)
- 4つの資料を関連付けて、学習課題の回答を説明する。(クロストーク)
- 自分の考えをまとめる。

③事後研修

講師：聖心女子大学 益川 弘如 教授

「授業実践と学びの成果についてのグループ検討」

- 授業動画を通して生徒の学習の様子を観察し、発言や行動を模造紙に可視化する。
- このあとジグソー活動ではどのような話し合いが行われると考えられるかを想定する。
- 「前向きなジグソー法」を目指してクロストークの改善案を検討する。
- 授業者から、撮影時以降の状況を報告する。



④授業プランの共有

講師：静岡大学大学院 河崎 美保 准教授

「事前課題 授業プランシートの内容について」

- 単元の中でどんな位置付けになるか構想しているか。
 - 単元を貫く問いを解決するために、ジグソーを用いた本時の学びの役割が位置付けられているか。
 - 学びの成果（理解と疑問）を学び手自身も実感できるようになっているか。
- などのポイントに照らして、各自が作成した授業プランシートのチェックと共有を行いました。

前向き、後ろ向きのジグソー法について学んだことが印象に残っています。教員が前向きに授業をすることが大切だと再認識することができました。(小学校)

校種や科目を超えて意見交換できたのは、普段の周りの教員からは言われなような新しい指摘をもらって非常によい刺激になりました。(高等学校)



受講者の声

自分の授業に対してたくさんのご意見や質問をいただき、貴重な機会となりました。大学の先生方の講義もとても勉強になりました。(中学校/代表者)

研究授業を見せていただき、対話を通して子供の考えが広がり深まったりするのを実感し、ぜひ授業で実践してみたいと感じました。(特別支援学校)

(今回は高等学校支援課が担当しました。)